

国立大学法人鹿屋体育大学の平成25年度に係る業務の実績に関する評価結果

1 全体評価

鹿屋体育大学は、全国でただ一つの国立の体育大学という特性を十分に活かし、健全な身体と調和・共生の精神を併せ持つ人材の育成に必要なスポーツ・身体運動を通じて、創造性とバイタリティに富む有為の人材を輩出するとともに、スポーツ科学・体育学領域における学術・文化の発展と国民の健康増進に貢献し、もって健全で明るく活力に満ちた社会の形成に寄与することを目指している。第2期中期目標期間においては、教育研究の成果を広く発信するとともに、開かれた大学として、生涯学習の機会の提供、教育研究資源の開放、社会との多様な連携を推進し、スポーツ・身体運動による健康づくりとスポーツ文化の向上に貢献すること等を目標としている。

この目標達成に向けて学長のリーダーシップの下、情報通信技術を活用した学生個人の映像を基に運動の診断と処方を行うことでスポーツの実践的指導力を養成する教育プログラムの開発を行うとともに、スポーツトレーニング教育研究センターにおいて、県内の5小・中・高校の研究協力校と学校教育で実践が可能な体力増進プログラム等の共同研究を進めるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（戦略的・意欲的な計画の状況）

第2期中期目標期間において、体育・スポーツ領域の学術をリードしていくための教育研究の強化を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでおり、平成25年度においては、九州地区の各国立大学と連携して大学院博士後期課程の学生に対して教育研究活動を行う「体育学・スポーツ科学連携大学院教育プログラム」を平成26年度から実施するため、熊本大学及び鹿児島大学と連携協定を締結するとともに、筑波大学との大学院共同専攻設置に向けて連携を強化するため、「筑波大学・鹿屋体育大学連携推進室」を設置している。

（機能強化に向けた取組状況）

屋外スポーツを屋内で実際に競技しながら測定・分析が可能なスポーツパフォーマンス研究棟を整備し、アスリートの競技力向上やコーチ論等を定量的かつ実践的に研究するスポーツパフォーマンス研究を推進するとともに、大学院博士課程をコアに九州地区の各国立大学間で連携を組み、大学間相互での研究指導・講義、研究セミナー、共同講義等を行う「連携教育プログラム」の開発を開始している。

2 項目別評価

I. 業務運営・財務内容等の状況

（1）業務運営の改善及び効率化に関する目標

（①組織運営の改善、②事務等の効率化・合理化）

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載13事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められることによる。

（２）財務内容の改善に関する目標

- 〔①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加、②経費の抑制、
③資産の運用管理の改善〕

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 6 事項すべてが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるほか、平成 24 年度評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が行われていること等を総合的に勘案したことによる。

（３）自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

- 〔①評価の充実、②情報発信等の推進〕

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 首都圏における情報発信の拠点の役割を担う筑波大学・鹿屋体育大学連携推進室において、公開講座、大学説明会等を開催するとともに、その実施状況を本学ウェブサイト「サテライト通信」として毎月掲載するなど、計画的かつ効率的な広報活動を行っている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

（理由） 年度計画の記載 5 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

（４）その他業務運営に関する重要目標

- 〔①施設設備の整備・活用等、②安全管理、③法令遵守〕

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 「鹿屋体育大学の地球温暖化対策に関する実施計画 第Ⅱ期（平成 25 から 29 年度）」に基づき、一定量の電力消費量を超えると強制的に空調を遮断する学内ピークカットを実施するなど、全学を挙げて温室効果ガスの削減に向け計画的に取り組んだ結果、平成 25 年度は対平成 19 年度比 6 %の削減目標に対し、20.9%（平成 24 年度：18.9%）の削減となっている。

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載 16 事項すべてが「年度計画を十分に実施している」と認められ、上記の状況等を総合的に勘案したことによる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成 25 年度の実績のうち、下記の事項が**注目**される。

- 学生に自らの将来像を明確にさせ、意識向上を図るため、キャリア形成科目において、4 年間のキャンパスデザインと卒業後のキャリアデザインを構築させていることに加え、平成 26 年度から「キャリアデザイン科目」として、これまでのキャリアデザインⅠ・Ⅱに加え、「キャリアデザインⅢ」、「キャリアコミュニケーション」、「企業実習」を新たに設定し、学生のキャリア教育を充実させている。
- アドミッションセンターにおいて、既に実施している AO 入試における入学前教育や他大学の入学前教育の状況等を基に実施計画（案）を作成し、行動傾向調査の導入や英語学習の課題を与えるなど、推薦入試における入学前教育の充実に向けた取組を行っている。
- 実技実習科目において「スポーツコーチングプログラム」の導入を図り、理論科目において「コーチング映像データベース」を活用した講義を実施することにより、情報通信技術を活用し学生個人の映像を基に運動の診断と処方を行うことでスポーツの実践的指導力を養成する教育プログラムを開発している。
- スポーツトレーニング教育研究センターにおいて、県内の 5 小・中・高校の研究協力校と学校教育で実践が可能な体力増進プログラム等の共同研究を進めるとともに、海洋スポーツセンターにおいて、鹿屋市と連携し、大隅半島における海洋スポーツ資源に関する調査を実施し、学習プログラム及び教育旅行プログラムを提案するなど、地域貢献につながる研究を進めている。
- 鹿屋市内の企業と共同研究で開発したスポーツ実施者向けサプリメント「スポーツハイブリッドサプリ」について、商品化契約の締結をしている。また、東京都や大阪府等で事業展開している企業及び鹿屋市との産学官連携プロジェクトを実施し、鹿屋市の食材を多く使用したスポーツ栄養学に基づく食事メニューを監修するなど、産学官連携の活動を推進している。